

2008年2月18日

日本銀行大阪支店

近畿地域金融経済概況

【全体感】

近畿地域の景気は、緩やかに拡大している。

すなわち、輸出は、海外経済の拡大を背景に、増加している。設備投資は、企業収益が高水準を続ける中、増加している。雇用情勢は改善を続けており、個人消費は底堅く推移している。他方、公共投資は減少基調にある。こうした需要動向を反映して、生産は増加している。

【各 論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、国・地方公共団体の緊縮姿勢を背景に、減少基調にある。

輸出は、海外経済の拡大を背景に、増加している。

12月の輸出をみると、米国向けが弱めの動きとなっているが、全体としては、化学、電気機器などを中心に増加した。

設備投資は、企業収益が高水準を続ける中、増加している。

すなわち、製造業では、能力増強や生産性向上に向けた投資など、非製造業では、物流・営業拠点の整備などから、それぞれ増加している。

個人消費は、底堅く推移している。

12月は、百貨店の売上高が衣料品を中心に減少したが、スーパーの売上高は飲食料品を中心に増加した。家電販売は、薄型テレビやエアコンを中心に増加している。乗用車販売は、新型車効果から幾分持ち直している。また、外食売上高が堅調に推移しているほか、旅行もやや持ち直している。

住宅投資は、改正建築基準法施行の影響から減少している。

12月の住宅着工は、引き続き前年を下回ったが、徐々に持ち直しつつある。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、増加している。

12月の生産指数は、電気機械、電子部品・デバイスを中心に増加した。

3. 雇用・所得動向

雇用情勢は、企業の人員不足感がみられる中で、改善を続けている。

雇用者所得は、基調としては底堅く推移している。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、プラスとなっている。

5. 企業倒産

企業倒産は、中小企業の倒産件数が幾分増加しているが、全体としては落ち着いた動きとなっている。

6. 金融情勢

預金残高は、緩やかな増加が続いている。

貸出残高は、小幅ながら前年を下回って推移している。これは、地域金融機関で、住宅ローンや不動産関連等の貸出が増加している一方で、大手銀行で、大企業を中心とした資金調達の多様化・効率化の動きなどから、貸出が減少していることによるものである。

預金金利は横ばいで推移している。貸出金利は、地域銀行で若干上昇したが、信用金庫では弱含みとなっている。

以 上